て腹掻切て失せられけり義氏三十三にてなられけり
時に天正九辛巳三月十五日なり日吉神の御
罰なりとぞ仁義の石なく神の御祟なる故なれ
ども時の人いまだ武義氏自害の事不審今に
其事も始なぞと聖人も行く事稀なれども空捨く
なり風雅き時節を思の昔偲ぶ音すさまじ
とぞ若し風雨の夜などは行けば必霊怪を見
る由の者も言伝へ又一説に他所にて霊
にて亡くなりたる仁賀保氏なども亡霊の流なりと之を討
たさんとて義氏人数をきりけるとぞ

義氏戒名元慶寺三事高安寺来由

小寺信正書集の在る所記に大山の麓の小屋に
立山なり高野山と云山禁を新山と云
宗信寺西法寺曹洞宗なりと云寺行山の
上に義氏の石塔あり子之を建る後人の建
つるなりと石面に刻む文謹以羽州大守桃翁